令和２年度　自 己 評 価 表

中長期目標（学校ビジョン）	技術を研き、身体を鍛え、心を慈くことをおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1．学力の向上 2．豊かな人間性の育成 3．キャリア教育の充実と進路実現 4．学校業務改善への取り組み

中長期目標	評価項目	評価の具体的内容	年度当初 現状	年度当初 目標（年度末の目指す姿）	年度当初 目標達成のための方策	各分野の具体的な取組（継続評価） 経過・達成状況	評価	各分野の具体的な取組（継続評価） 評価に対する改善策
1 学力の向上	① 学力の向上	授業改革と学力の向上	【授業改革】 ◇学力向上研修会を予定どおり年２回実施。学力向上研修を活かしている職員の割合が38%に上昇 ◇アクティブラーナー活用研修を実施。アクティブラーナーに関する情報も随時提供した ◇授業アンケートを実施し、教科ごとに改善策を検討したが、生徒の授業満足度は70.4%に留まる 【学力の育成】 ◇進学補習（放課後補習、個別指導）、資格検定対策補習、数学・専門科目の基礎学力向上補習を実施 ◇基礎力診断テストのゾーンの生徒の割合は４月に比べて減少したが、「全体の40%以下」の目標は未達成 【学習環境の整備】 ◇全学年とも、落ち着いて授業に臨む姿勢がみられた	【授業改革】 ◇職員研修を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を実践する職員の割合が増加 ◇他校の授業あるいはアクティブラーナーの視察を、自らの授業実践に活かすことができる ◇感動的に学習することができる生徒の増加 （生徒の授業満足度が75%以上） 【学力の育成】 ◇基礎力診断テストを活用し、自らの学び方を振り返ることができる生徒 ◇数学力を有し、専門教育に対応することができる生徒 【学習環境の整備】 ◇「５整理・整頓・清掃」を実践し、自ら学習環境を整えることができる生徒	【授業改革】 ◇学力向上職員研修（年２回）及び、ICT活用研修の実施 ◇アクティブラーナーの利用推進に向けての情報の提供及び、「一人一授業公開」の実施 ◇授業評価アンケートを実施し、振り返り及び改善に活用 【学力の育成】 ◇低学力層の生徒に対する個別面談・指導の実施（基礎学力充実補習） ◇進学および基礎学力向上・定着のための数学補習の実施 【学習環境の整備】 ◇「５Ｓ・あさひ」の励行による、教室整備と授業規律の確立	【授業改革】 ◇学力向上研修を予定どおり実施。研修を活かしている職員の割合は43%に上昇 ◇オンライン授業の導入に向けてICT活用研修を３回実施。講演会や式典等の学校行事を教室で観る技術を確立 ◇校内Web上にアクティブラーナーの情報を提供、オンライン研修に延べ15名参加 ◇一人一授業公開はコロナ禍での実施が難しく、実施率は66%に下落 ◇対話的な学習活動に制限はあったが、ICTを活用した授業実践が徐々に浸透 ◇ 評価アンケートによる生徒の授業満足度が76.8%に改善（昨年70.4%） ◇教員自主研修として「授業見学週間」を新設。また、烏工版STEAM（教科横断型学習）の実施に向けて「単元・題材配列表」を作成 【学力の育成】 ◇基礎学力不足の生徒に対する指導を、１学期に各科が４回程度実施 ◇数学基礎演習を、工業各科・数学科が実施 ◇２年生で進学補習及び、成績不振者の「考査前自主学習会」を実施 ◇基礎力診断テストのDゾーンの生徒は若干減少 【学習環境の整備】 ◇毎週初めを「５Ｓ・あさひの日」とし、整備された室内環境を維持 ◇GIGAスクール構想に伴い、教室視・共通実習棟のWi-fi環境を増強 ◇プロジェクタの更新による視認性向上、教材提示法の拡充	B	【授業改革】 ◇生徒が活躍・活動し、生徒の満足感・達成感につながる授業づくり ◇ネットワークを活用した授業及び家庭学習、烏工版STEAM等の研修を実施 ◇アクティブラーナーの規模とオンライン研修の参加を推進 ◇一人一授業公開の充実及び授業見学週間の継続 ◇烏工版STEAMの推進及び新学習指導要領に基づいた年間指導計画の策定 【学力の育成】 ◇基礎学力不足の生徒への組織的な指導を継続 ◇基礎力診断テストの結果を用いた面接指導の実施 【学習環境の整備】 ◇「５Ｓ・あさひ」の取り組みを継続 ◇タブレット端末及びネットワーク環境の更なる整備
		主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間は増加 R1第2回93分/日（H30：83分/日） ◇授業規律を保つよう規然とした態度で授業に取り組むことができ、学力向上につながることができた ◇アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を日常的に意識し、主体的な学習となる場を意識的につくった	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間の確保（目標による学習時間：100分） ◇規律ある授業展開、端に応じた速やかな動作・集団行動できる生徒 ◇基礎学力を身につけ、進路を意識し、主体的に学習に取り組むことができる生徒	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間増加に向けて各教科で検討し取り組む ◇授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ◇基礎力診断テストを通じて学力を把握し、D3の生徒の補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかる	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間調査の第１回は平均として目標（100分）達成、第２回は１クラスのみ目標達成８クラスが第１回よりも減少 ◇授業のルールを明確化し、効果を発揮しているクラスある。工業科では実習前の集会で活動内容を確認し効果有 ◇予鈴を設定し、授業開始までの事備・着席が良好 ◇教室視迎回業務を利用し、授業中の生徒の様子を観察し指導 ◇考査後を中心に、成績不振者に状況確認や学習目標を喚起 ◇基礎力診断テストの結果利用は不十分	B	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習に結びつく授業づくりを各教科で検討 ◇タブレット等ICT機器を利用した授業の実践 ◇授業規律を学年・科の協力で徹底 ◇継続して、予鈴を意識させ、授業開始前の事備・着席完了を継続的に指導 ◇考査後を中心に、成績不振者に対し状況確認や学習目標の喚起につながる面談の実施 ◇基礎力診断テストの結果活用した生徒面談の実施
2 豊かな人間性の育成	① 知・徳・体のバランスのとれた人間の育成		【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育ＬＨＲの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー、家庭等との連携をはかった ◇性に関する指導講演会やLHRを通じて、他者を尊重するとともに、性への自立・共生がおされた 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-ＱＵアンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート（３回目）を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校内外の人権教育関係の研修への参加を呼びかけた（一人一研修、2月末100%） ◇校内人権教育研修会（職員向け）を９月に実施	【人権教育・性に関する指導】 ◇生徒の人権意識の高揚に、他者の人権や存在の尊重 ◇生徒の興味に応じた支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解と集団規律の順守 ◇いじめの無い学校生活 ◇学校が楽しいと思えるとともに、悩みが相談しやすい雰囲気の確立 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加１００％ ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHR・性教育LHRの実施 ◇特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇１・２年生２回、３年１回のハイパーQUを実施し、その都度データの読み取りや活用についての職員研修を行う ◇いじめアンケート、生徒会伝言ＢＯＸ、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育ＬＨＲの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー等への連携を図った ◇第語・地域・出身中学校、ＰＴＡ人権教育部等と連携もした ◇人権問題講演会を２年生に対して６月に実施 ◇性に関する指導講演会やLHRを通じて、性への自立・共生、正しい異性観を育んだ ◇熱中症予防の徹底や感染症予防の換気の放送など委員会が活性化した 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇ハイパーＱＵアンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート（計３回）を実施し、問題の早期発見対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修の中止・延期が相次ぎ、参加の呼び掛けができなかった（12名、21%の参加） ◇公開人権教育LHR後に研究協議を実施	B	【人権教育・性に関する指導】 ◇１人１研修への参加の呼び掛け、個別の情報提供 ◇各行事を計画的に実施する ◇人権教育LHR等の実践内容を整理し、分かりやすいものにする 【ハイパーＱＵ、いじめアンケート等の活用】 ◇各行事を計画的に実施する ◇今後も他分掌との連携を図り、生徒の実態に応じた活動を行う ◇いじめアンケートを安心して実施できるよう最後に取り組む 【指導力向上の職員研修】 ◇各種研修の校内での実施及び校外研修への案内
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成		【基本的生活習慣の確立】 ◇「５Ｓ・あさひ」、あいさつ運動については、一定の効果をあげている ◇学年ノートへの記述が多く、早期発見・早期対応の措置に少し時間差があり、指導への時間がかかったことがあった ◇朝時全校集会を２回開催するなど落ち着きのない状況であった 【ボランティア活動】 ◇ふるさと手作りまつり等のイベントボランティアに積極的に参加し、171名の生徒が活動した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では昨年より多い１５０名以上の選手が中国大会や全国大会に出場した ◇各委員会の活動が定着した 【環境改善】 ◇廃棄物H28年度比5%減、電力はH28年度比1%減という目標をあげているが、１月で廃棄物2.9%増 電力2.3%減だった 【安全教育】 ◇各種安全教室を実施することができた。しかし、講演内容については今後の検討課題である ◇自転車事故12件	【基本的生活習慣の確立】 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇頭髪検査の不合格者の減少 ◇正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がＲ元年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 ◇部活動において、Ｒ元年度の中国大会出場者数と同等比（全校生徒に対し）９５人を維持 【環境改善】 ◇環境ＬＨＲ、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 ◇H30年度比可燃ゴミ排出量2%減、電力はH30年度比１%減を目指す 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な頭髪・服装指導 ◇頭髪検査の実施と継続的な事後指導 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による交通指導、教室巡回を行った ◇携帯マナー講習、非行防止教室、薬物乱用防止教室は予定通り開催した。なお、自転車安全教育は学年集会、ＬＨＲ等を利用し講話で代替した	【基本的生活習慣の確立】 ◇定期的な頭髪検査を実施した。また、日常的にも服装・頭髪 について指導を行い規定の徹底に努めた ◇教室棟の巡回、常に教科担任と情報を共有し、授業規律の徹底に努めた 【ボランティア活動】 ◇今年はボランティアが中止となる中で、鳥取砂丘の除草ボランティアに14名の生徒が参加した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では、大会中止が多かったが、1月現在累計で中国大会に11名出場 【環境改善】 ◇廃棄物2018年度比2%減、電力は2018年度比1%減という目標をあげており、11月で廃棄物3.5%減、電力6.0%減だった 【安全教育】 ◇全職員による交通指導、教室巡回を行った ◇携帯マナー講習、非行防止教室、薬物乱用防止教室は予定通り開催した。なお、自転車安全教育は学年集会、ＬＨＲ等を利用し講話で代替した	B	【基本的生活習慣の確立】 ◇本年度立てた具体的方策を継続的に実施する ◇規定の意義をあらためて理解させ、規定遵守を徹底させる ◇問題行動に繋がかねない事象の把握方法を再検討する 【ボランティア活動】 ◇今後も続けてボランティア活動の場を広報する 【部活動、生徒会活動】 ◇関係分掌・教科等と連携し、より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加できるように支援する 【環境改善】 ◇継続して、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇携帯マナー講習、交通安全教室、非行防止教室、薬物乱用防止教室の開催
3 キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得		【人材育成】 ◇教科の基本内容に関連した検定試験から、難易度の高い資格検定試験に多くの生徒がチャレンジした ◇現場体験学習（インターンシップやP企業見学）を実施	【人材育成】 ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験にチャレンジ ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験に合格	【人材育成】 ◇資格、検定が進学に大きなプラスになることを認識させるとともに、各種大会への参加の啓発指導の継続 ◇生徒の資格取得状況の把握及び事前指導 ◇資格取得実績が年５効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施	【人材育成】 ◇教科の基本内容に関連した検定試験から、難易度の高い資格検定試験に多くの生徒がチャレンジしたが、今年度はコロナウイルスの影響により いくつかの検定試験が中止となった ◇資格・検定試験の合格者数および割合　※令和３年２月３日現在 ※受験者数／在籍者数 学校全体（406/405：100.2%）（令和元年度：84.6%） 1学年（118/123：95.9%）（令和元年度：100%） 2学年（120/135：88.9%）（令和元年度：83.9%） 3学年（168/147：114.3%）（令和元年度：114.3%） ◇資格・検定試験の合格者数および割合　※令和３年２月３日現在 ※合格者数／在籍者数 学校全体（226/405：55.8.%）（令和元年度：50.9%） 1学年（68/123：55.3%）（令和元年度：75.0%） 2学年（75/135：55.6%）（令和元年度：45.0%） 3学年（83/147：56.5%）（令和元年度：37.4%） ◇烏取県立高校職業教育技術調査　14名受賞 ◇全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター認定　ゴールド　５名、シルバー　４名、ブロンズ　25名 ◇高校生ものづくり大会中国大会中止（制御・情報科　電子機器組立部門出場できず） ◇高校生ものづくり大会鳥取県大会　電子回路組立第１、２位：中国大会出場権獲得　旋盤部門第3位 ◇工業全科および陸家科で社会人講師による授業を実施 ◇現場体験学習は中止となったが、代替案を企画、実施	B	【人材育成】 ◇「資格・検定ガイドブック」を活用し、積極的かつ計画的な受験の促進 ◇計画的に補習を実施するとともに、個々に応じた効果的な家庭学習の立案・指導 ◇社会人講師事業や現場体験学習など、実社会と関わる事業の継続実施
	② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底		【職業意識の育成】 ◇インターンシップ２年生、企業見学は工業科全学年で実施 ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加、各科社会人講師による授業等を実施 ◇資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ◇改訂した「進路の手引き」を用いた進路LHRを展開 ◇５月の３年生進路ガイダンス、10月の１、２年生分野別進路ガイダンスは保護者にも案内 ◇１回目の就職試験合格率は目標の90%に届かず87%	【職業意識の育成】 ◇職業観、勤労意識の育成及び定着 ◇専門的な知識・技術の定着 【進路指導の徹底】 ◇キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で確立 ◇一回目の就職試験合格率90%以上 ◇新入試制度に対応した、希望する進学先への合格指導	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、各企業見学等の実施及び事前指導の徹底 ◇就職者は、夏季の就職ガイダンス、冬季の就職セミナー、社会人としての基礎教養講座に積極的に参加 【進路指導の徹底】 ◇とどけるさとキャリア教育の全体計画に基づき、「キャリア・パスポート」「進路の手引き」を活用し３年間を見通し、系統立てた進路指導を実施 ◇校内の進路行事には、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導を実施	【職業意識の育成】 ◇２年 インターンシップ中止に伴い、代替案として2年生進路ガイダンスを実施 ◇３年 応募前職場見学は就職希望者全員が参加、社会人としての基礎教養講座、就職セミナーへの参加 【進路指導の徹底】 ◇進路の手引き、キャリア・パスポートを用いた進路LHRを展開 ◇進路面接資料（就職編、進学編）を作成し面接指導に活用 ◇担任間で企業・学校説明会（検討会20回実施（昨年30回） 参加延べ人数305人（昨年185人）と大幅増　その内26人が説明会参加企業、学校に進路決定 ◇３年生に対して朝読書の時間を活用し、一般常識、SPI対策問題実施 ◇1・2年進路ガイダンスにつて保護者参加を案内 ◇基礎力診断テスト、各種外部模試の実施、各教科、担任へフィードバック、効果的な指導を実施 ◇1回目の就職試験合格率は目標値の90%を超え91%を達成 ◇国公立大学4名合格	A	【職業意識の育成】 ◇インターンシップの支援、企業見学の企画運営 ◇学年ごと情報を共有し、校外の行政、団体、各事業所と連絡を密にとり、各進路行事を適切に実施 ◇就職先とのスマッチがないよう応募前職場見学を踏まえ ◇就職希望者及び内定者について就職ガイダンス、セミナー等に参加させ職業意識を高める ◇例年と異なり計画通り実施しできなかった進路行事等について代替案を含め丁寧に対応 【進路指導の徹底】 ◇キャリア・パスポート、進路の手引きの活用 ◇各進路行事の企画運営により3年間の見通しを持った進路指導を実施 ◇ハローワーク同知と連携した進路企画運営 ◇10人面接の早期活動指導 ◇キャリアドバイザーとの面談を適宜開催 ◇3年ごと連携し就職希望者の一般常識、SPIへの取り組みを支援 ◇就職内定者と企業等の徳潤、（入社前準備、提出物、課題等の対応） ◇各学科・普通教科担当と連携し、進学希望者への指導の充実
	③ 地域や産業界との連携強化		【人材育成】 ◇企業見学、インターンシップなどの各事業を予定通り実施 【情報発信】 ◇ＨＰの更新も昨年引き続き、増加傾向 ◇出前授業や中学校体験入学などの反応は良好 ◇学年によっては昨年以上に学年通信などを発行し、学校の見える化をはかっている 【地域との連携】 ◇桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動を実施 ◇テクノボランティアは例年通り７月と12月に実施 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇各事業ごとにＨＰ、まちこみメールを発信し参加者の増加を図った ◇各事業の参加者はクラス減などの影響もあり概ね減少傾向 ◇昨年までの手話講演会を、手話だけでなく人権研修会として内容を広げた形で実施	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【情報発信】 ◇「ものづくり」の体験を自由な地域ぐるみ中小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇地域行事、地域と連携した興味活動等への参加 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇保護者、地域中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域のカ々の本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り ◇保護者などが参加しやすい事業の計画	【人材育成】 ◇各事業ごとに事前・事後に継続指導を行い、生徒への進路意識を徹底 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、保護者への参加を促すＨＰやまちこみメールの継続活用 ◇参加可能な催事への出席、タイムリーな記事をＨＰ等で情報発信 【地域との連携】 ◇津ノ井地域懇談会での積極的な意見交換、地域文化祭などへの参加 ◇テクノボランティア等の継続実施 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇学校行事との連携を考慮したＰＴＡ活動を具体的に計画	【人材育成】 ◇上半期の企業見学、インターンシップなど各事業は概ね中止、下半期は企業見学など概ね予定通り実施 【情報発信】 ◇行事ごとにタイミングを考え、実施したものについては案内、HPを更新、また学年によっては学年通信などを随時発行 ◇出前授業の反応は良好、進路説択への影響を期待、中学校体験入学は説明見学のみ実施 【地域との連携】 ◇津ノ井地域懇談会は中止、マナーアップ週わりか運動は９月分のみ実施 ◇テクノボランティアは７月のみ実施、１２月は中止 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールなどを通じて情報を発信、ただし、今年度は中止、延期の連絡増加 ◇コロナ禍でもできる行事を精選して実施し、実施したものについては昨年より参加者増	B	【人材育成】 ◇実施可能な行事では継続指導を行い、生徒への意識を徹底 【情報発信】 ◇実施可能な行事ごとに保護者への参加を促すHPやまちこみメールを継続活用 ◇出前授業、テクノボランティアなどの継続実施、タイムリーな記事をHP等で情報発信 【地域との連携】 ◇参加可能な行事には積極的に参加し、地域と密接に交流 ◇テクノボランティアなどの継続実施による地域貢献活動への参加 【ＰＴＡ活動の推進】 ◇コロナ禍の中でも実施できる行事を精選し、できるだけ多くの保護者が関わることのできるように発信を密にしながら ＰＴＡ活動の内容を検討
4 業務改善の取組	① ５ＳとＱＣＣＴストーリーの実践		◇定期的な執務室の清掃を実施 ◇共有フォルダを再構成し、業務の手順書の作成を依頼した が次年度用のフォルダの構成が未完成なこともあり、不十分な状況 ◇朝礼時間での計画的な指導分担を実施し、時間外業務時間が短縮した 時間外勤務が80時間以上の職員　3人(4月)→0人(3月)	◇５Ｓの実践により、業務場所や共有フォルダの整理・整頓を行うとともに、QC ストーリーに則した計画、見直し、次回に向けた修正を行い、業務内容の理解 と実施のための時間を削減する ◇部活動における休養日、活動時間を設定し、時間外業務年間360時間 月45時間以内に縮減する ◇職員のR2年度の平均時間外業務時間はH29年度比25%削減をめざす	◇定期的な執務室の清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールの設定、担当ごとの要項、または手順書を作成し、 業務終了後に修正を行い共有フォルダに保存する ◇朝礼間での計画的な指導分担の実施 ◇時間外業務時間を管理職が適宜職員にフィードバックする	◇執務室の清掃については各部署ごとに実施 ◇共有フォルダの使用ルールについては定着。手順書等は作成予定 ◇部活動実施計画書を作成し、計画的に指導を分担　※時間外業務が月45時間を超えた回数（１月末現在）　－ のべ５回 ◇管理職が時間外業務時間の現状をフィードバックするなどにより、H29年度比51%の削減 ※時間外勤務の6ヶ月平均（１月末現在）　－ 教職員１人当たり11.5時間	A	◇執務室の清掃については一斉清掃日を引き続き設定する ◇業務実施に当たり、ＰＤＣＡの再確認 ◇部活動実施計画書による教諸を継続 ◇時間外業務の現状のフィードバックを継続

注）５Ｓ：整理・整頓・清掃・清潔・躾　あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く　ハイパーＱＵアンケート：よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート　デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム　テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動　AL：アクティブ・ラーニング　QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順　PDCA:Plan-Do-Check-Actionの４段階で行う業務改善　評価基準　A：十分達成(100%)　B：概ね達成(80%程度)　C：変化の兆し(60%程度)　D：まだ不十分(40%程度)　E：目標・方策の見直し(30%以下)